石碑２基を同年に建立

岡山県真庭市・蒜山開拓

岡山県北中部の真庭市は 05 年、５町４村が合併して誕生。最北部で鳥取県と境を接する蒜山（ひるぜん）地区（旧・八束村、川上村）の蒜山高原は標高５００～６００㍍、夏は避暑地として観光客で賑わう。風光明媚で、キャンプ場やスキー場、レジャー施設があるが、戦前は陸軍の演習場だった。戦後、緊急開拓事業で切り開かれた。

46（昭和 21）年 12 月から入植が始まり、翌年５月に総勢１７５名をもって蒜山原開拓団が結成された。48 年、蒜山原開拓農協を設立（後に蒜山開拓農協）した。

雨量が多い地域で、屋外作業は困難を極めた。冬は積雪が多く、厳しい気象条件だった。土壌は火山灰を含む「黒ボコ」に覆われ、強酸性。入植者の前歴は様々で、ほとんどが農業の未経験者であり、鍬一丁の開墾作業は容易ではなかった。

農業収入が満足に得られぬ歳月が流れたが、52 年、試作販売した美濃早生ダイコンが好評を博し、生産を拡大。59 年、開拓農協による共販体制が確立した。また、57 年にはジャージー牛による酪農経営が始まった。次第に頭数を増やし、国内有数のジャージー牛の産地となった。

現在、ダイコンとジャージー牛製品（牛乳・乳製品）が蒜山の特産品となっている。

「道の駅　蒜山高原」近くの八束自然牧場公園内に、蒜山拓友会が管理している２基の石碑がある。開拓 40 周年を迎えるにあたり、蒜山開拓農協が２基とも 85 年に建立したもので、翌年、除幕式が行われた。碑銘は記念碑が「蒜山開拓記念碑」、拓魂碑が「拓魂」。記念碑の裏面には、開拓の沿革と開拓者氏名が刻まれている。碑文の末尾には「記念碑と拓魂碑を建立し亡き友の霊を祀ると共に苦難に徹して立上った我等の開拓精神を後世に伝えんとするものである」と記されている。

〇蒜山開拓記念碑

①位　置　岡山県真庭市蒜山富山根　蒜山自然牧場公園内
35.295928, 133.668682

②設置者　蒜山開拓農業協同組合

③設置日　昭和 60 年５月

④碑文表　①蒜山開拓記念碑　参議院議長　木村睦男書
②拓魂　内閣総理大臣　中曽根康弘書

⑤碑文裏　①昭和２１年春政府の緊急開拓政策に応じ敗戦の悲しみの中にも欝勃たる気を秘めこの地に馳せ参じた開拓同士の数１７５名５月９日厳粛に結団式を挙行した然してそこには言語に絶する苦難の日々が待ち構えていた酸性の強い黒ボコ蒔いても植えても育たない日々が延々と続き遂に鍬を捨て出稼ぎに行かざるを得なくなった加えて冬季は１米余の積雪この苦難の生活に耐え兼ね山を去る者が続出した然しこの苦難によく耐えた我らは立上る努力を怠らなかった巳に昭和２３年には美濃早生大根の栽培に着目し漬物による現金収入の道をひらき２７年には生果として市場出荷の道を見つけ栽培面積の拡大に伴い３４年には開

拓農協共販体制を確立更に地元え栽培が拡大され３６年に蒜山地区出荷連合会を設立遂に蒜山大根の銘柄を日本全土に確立した３５年蒜山開拓振興計画が認定され建設工事も着工を見一方一部の同士は大型酪農により生計を安定するに至った茲に蒜山開拓４０周年を迎えるに当たり記念碑と拓魂碑を建立し亡き友の霊を祀ると共に苦難に徹して立上った我等の開拓精神を後世に伝えんとするものである
（氏名　100 名あまり）
昭和 60 年 10 月吉日
初代団長　成友正明撰書

②過ぐる昭和 20 年 8 月太平洋戦争終結後の国内は言語に絶する食糧の拂底に対応した政府の緊急開拓実施要領の国策に順応して食糧増産者の名を冠せられ入植致された私達の先輩同僚の各位が困苦欠乏に耐えて鋤を揮い遂に病に侵され今日の蒜山原を知る由もなく見果てぬ夢に悔いを残して他界致された諸子の心情を思う秋惻隠の情切々と私達の胸を打ちます茲に蒜山開拓 40 年の節目を迎え開拓者一同相図り諸子の霊魂の御冥福を祈り拓魂碑を建立して諡を碑庫に奉納し幾久しく皆様の追善を行います本碑建立には岡山県八束村各当局を始めその他各方面より絶大な協賛を得更に本碑面題字は中曽根康弘内閣総理大臣の揮毫快諾を得て皆様の霊位に応えて頂きました希わくば在天の霊魂安らかにお眠り下さい
昭和 60 年 5 月吉日
蒜山開拓農業協同組合
（氏名　20 数名）

⑥写真　表

裏

⑦記念碑の現在の立地状況

公園内に位置し拓友会が管理している。